

脇本雄太、古性優作の最強コンビ

第7回ウィナーズカップ「オランダ王国友好杯」は、3月18日、21日の日程で別府競輪場に於いて開催される。この大会は出場選手の選考基準に1位回数上位30名、ヤンググランプリ出走者などがあるため、若手の自力型が数多く参戦。SS班が貫録を示すのか、それとも若手が金星をゲットするのか、勝ち上がり戦から激しいスピードバトルが繰り広げられる。また、最終日第9レースにて「ガールズケイリンコレクション」別府ステージが一発勝負で争われる。ガールズ最強の称号を得るのは果たして誰なのか。こちらも見逃せない。

昨年は初の3億円レーサーに輝き、輪界トップの脚力を誇る脇本雄太。2月奈良記念は2日目から急性腰痛症のために欠



脇本雄太

場していて、全日本選抜は体調が注目を集めたが、結果は①②④着。スタートルビー賞は新山響に叩かれて力を出せずに終わったものの、残りの3走は機動力を発揮してレースを支配していた。本調子とは言えなかったが、戦える状態にあった。更に調子を戻しているようなら、第3回大会以来となる2V目をゲットだ。昨年に続き全日本選抜を連覇し、真っ先にグランプリの出場権を手中に修めた古性優作。今年2月奈良記念の二次予

選で失格を喫した以外、まったく連を外しておらず、安定感の高さには素晴らしいものがある。脇本との最強タッグで大会初Vを飾る可能性は大いにあろう。近畿勢では三谷竜生も調子は上向き。2月奈良記念を4連勝で飾ると、全日本選抜は②④③③着。3年ぶりとなるG1優参を果たしている。

新田祐大、佐藤慎太郎、新山響平、守澤太志の4名のSS班を擁する北日本勢は強大な戦力を誇る。大將格は昨年に寛仁親王牌を制覇し、グランドラマーの称号を得た新田だ。今年は1月立川記念で4連勝とスタートダッシュを決めると、その後も決勝を外していない。だが、全日本選抜の決勝は、カマした脇本に飛びつきを狙う古性に競り負けて大敗を喫した。先行目標が不在なら総力戦でリベンジを目指す。守澤は相変わらず高いレベルで成績をまとめている。全日本選抜④①②②着の決勝は、的確なコース選択から鋭い差し脚を発揮して準Vに食い込んだ。

南関は郡司浩平、松井宏佑の神奈川勢に深谷知広、渡邊雄太の静岡勢と自力型が充実している。

今年は初戦の1月和歌山記念を欠場すると、その後も一息不足の場所が続いている松浦悠士。そろそろ上昇気流に乗りたいところだ。この大会は相性が良く、第4回で優勝すると、第5回は決勝3着、第6回は準V。第5、第6回を連覇していた盟友の清水裕友が不在の分も結果を出したい。松浦が頼りにするのは犬伏湧也だ。犬伏は全日本選抜①①⑧①着、3勝を挙げると、第4回は決勝3着、第5回は準V。第5、第6回を連覇していた盟友の清水裕友が不在の分も結果を出したい。松浦が頼りにするのは犬伏湧也だ。犬伏は全日本選抜①①⑧①着、3勝を挙げると、第4回は決勝3着、第5回は準V。第5、第6回を連覇していた盟友の清水裕友が不在の分も結果を出したい。



新田祐大

競演。勝者の旗
ウィナーズカップII
“オランダ王国友好杯”
2023 3/18 土 19 日 20 月 21 火 開催



古性優作

古性優作は、2月伊東G3、同月別府を連覇して自信を深めたのか、3月大垣記念の走りも力強かった。好位置キープから自力を出せば連に浮上も。

主力メンバー ※2023年3月8日現在

Table with 10 columns: Name, Class, Registration, Race, Points, etc. Includes riders like Matsuda Yusaku, Kosei Yuasa, etc.

「ウィナーズカップ」 出場予定選手

Table with 10 columns: Name, Class, Registration, Race, Points, etc. Includes riders like Yashimoto Yuta, Shintaro Yoda, etc.

ガールズコレクション

Table with 3 columns: Name, Registration, Points. Includes riders like Kobayashi Yui, etc.

※2023年3月8日現在

北井 佑季（神奈川/119期）

ビッグレース初参戦だった全日本選抜では、準決にコマを進めた。一次予選で逃げ切ると、二次予選は守澤太に差されたもののまくって2着。自力攻撃の破壊力には素晴らしいものがあり、今回も大暴れが期待できる。



町田 太我（広島/117期）

昨年の後半戦から調子を落としていたが、ここに来て先行力が甦ってきた。2月静岡記念では一次予選、最終日特秀で逃げ切り2勝をあげると、全日本選抜の二次予選は、平原康らを相手に逃げ切るヒットを飛ばしている。



橋本 瑠偉（栃木/113期）

今年はまだ決勝では結果が出ていないものの、F1戦は4場所参戦し、すべて連勝で決勝に乗っている。レースの組み立てには課題も残るが、スピード、ダッシュ力は一級品だ。ビッグレース初参戦でも軽視できない。



ガールズケイリンコレクション2023別府ステージ

佐藤水菜が借りを返す

出場予定選手詳細

※2023年3月8日現在

出場選手プロフィール		直近12場所成績	
選手名	出身地/期数	直近4ヶ月 前期得点 今期得点	総合評価
尾方 真生	福岡 久留米 23	118期161cm65 金400 57.13 56.50 57.00	95 [6]
見玉 碧衣	福岡 大野城 27	108期169cm67 金400 56.00 57.63 55.66	91 [8]
小林 優香	福岡 久留米 29	106期164cm64 金400 57.58 56.89 57.66	95 [8]
柳原 真緒	福岡 福岡市 25	114期164cm61 金400 57.95 57.36 57.61	94 [4]
鈴木 美教	静岡 賀茂郡 28	112期164cm66 金333 56.76 56.64 56.80	95 [6]
佐藤 水菜	サトウ ミナ 24	114期163cm63 金333 57.50 57.33 57.37	89 [10]
太田 りゆ	埼玉 上尾市 28	112期166cm62 金333 57.33 57.37 57.37	83 [13]

G1レースが新設され、23年度より新体系で実施されるガールズビッグ戦線。その新年最初の特別となる。本命は世界の佐藤水菜だ。五輪の出場枠を巡るポイント争いも始まって今は競技に専念しており、グランプリ以来の実戦になる。だが、これまでもそうだったようにレース勘やハードスケジュールの疲れは心配無用だろう。ネーションズカップ第1戦のケイリンで金メダルを獲得した脚と勝負度胸は一枚も二枚も上。他の全員が佐藤の動きを意識する中、自分の好きなタイミングでスパートして押し切る。グランプリでの落車、昨年大会でまくり届かず2着だった借りを返す。僚友の太田りゆは実戦経験が乏しいのがビッグレースで結果を出せない要因になっているが、そろそろポテンシャルをフルに発揮なら佐藤にも迫りたい。



柳原 真緒



佐藤 水菜

となった柳原は今年も6場所14勝、2着4回。ほぼ勝ちっぱなしでプレッシャーも力に変えてさらに成長している。勝負所を外さずに一撃を放てば好勝負。ナショナルチームを卒業する原因となった怪我の影響もなくなった小林にとって今年のテーマは、女王奪還。新年初戦の1月小倉MN決勝で2着になった以外、全て勝っていて競輪に専念すればレベルが違ふ。自信を持って踏み出し、スピードに乗ってしまふと止まらない。

尾方真生も今年最初のトライアル戦がダメだった以外は白星街道。経験も積んでそろそろ大仕事にも期待したい。鈴木美教も怖い選手だ。長い距離も踏み切る地脚が武器だが、自在、追込みタイプがないこの一戦では器用な面が生きてきそう。要注目だ。

見玉碧衣は大怪我から僅か1カ月で復帰も、まだ復調途上といった走り。見玉らしい豪快な競走が見られるのもう少し先では。